

# 管楽合奏は楽しい会？

No.53 “チェコ、オーストリア、フランス管楽合奏ベルト”

2019年(令和元年)12月22日(日)14時00分開演 深川江戸資料館小劇場

ドヴォルザーク (捷/1841~1904)

「スラブ舞曲 Op.46-2」

(Fl)今井 (Ob)楠原/土屋 (Cl)庄子/兼氏 (Fg)尾作/大石/阿部 (Hn)市原/鈴木

シューベルト (奥/1797~1828)

「メヌエットと終曲」

(Ob)山本/土屋 (Cl)向山/庄子 (Fg)尾作/大石 (Hn)鈴木/永田

グーヴィ (仏/1819~1898)

「八重奏曲」全4楽章

(Fl)今井 (Ob)土屋 (Cl)景山/庄子 (Fg)阿部/ (Hn)菅川/鈴木

ミスリヴィチェク (捷/1737~1781)

「オクテット 第1番」全3楽章

(Ob)楠原/山本 (Cl)向山/兼氏 (Fg)大石/山田 (Hn)菅川/市原

--- Intermission ---

クロンマー (捷/1759~1831)

「パルティータ 変口長調Op.67」全4楽章

(Ob)山本/楠原 (Cl)兼氏/景山 (Fg)山田/大石 (Hn)市原/永田

ドヴォルザーク (捷/1841~1904)

「チェコ組曲」全5曲

(Fl)信澤/今井 (Ob)土屋/山本 (Cl)景山/向山 (Fg)尾作/阿部 (Hn)菅川/永田

## 出演者の簡単なプロフィール(楽器別50音順)

(Cond & MC)森川 一 (もりかわ はしめ)

法政大学入学後ファゴットを始め、菅原眸氏に師事。同校卒業後、東京藝大別科で三田平八郎氏に、その後元ハンブルク州立劇場奏者フリッツ・ヘンカー氏に師事する。フリーの奏者として活動し今日に至る。78年より毎年ソロ及び室内楽の演奏会を開催。他にオケのトレーナー、文筆など多岐に渡る活動を行う。「管楽合奏は楽しい会？」及び「フルスヴァルト合奏団」「森川室内楽」などを主宰。リード製作者としても高い評価を得ており「森川ファゴット&リード倶楽部」を運営している。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人代表

(Fl)今井秀二(いまい ひでじ)

小学校6年生の時、クラスの男子の間でなぜかフルートが流行り、町の音楽教室に通う。卒業文集に「オーケストラのフルート奏者」と将来の夢を書く。東京学芸大学管弦楽団、卒業後は幾つかの市民オケを経て、現在はガリマティアス・ムジクム(大学のOBオケ)、合奏団ZEROでアンサンブルを楽しんでいる。困らずも小学校時代の夢を叶えた。小学校の教員ではあるが、本業は「アマチュアフルート奏者のプロ」と一人心中で思っている。

(Fl)信澤達也(のぶさわ たつや)

高校1年のとき隣席の友人の勧めでフルートを始め、磯辺庄平氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て卒業後は東京アマデウス管弦楽団(2009~2014は団長)で活動。鉄鋼系化学メーカーで永らく研究職を勤めたが現在は特許関係の仕事に移った。終日机に向かう仕事なので運動不足が気になる気になる昨今である。現在、職場のビッグバンドでは何とバストロンボーン兼コンサートマスターとして活動中。

(Ob)楠原千佳子(くすはら ちかこ)

中学からオーボエを始め、藤原勲氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団及びアンサンブル・メゾンに所属。大学~大学院を通して、コンクリート相手の研究で手がザラザラした時期もあったが、現在は少し手にやさしい社会人となった。

(Ob)土屋英晃(つちや ひであき)

東京都出身。14歳よりオーボエを始める。桐朋学園大学音楽学部、同卒業演奏会出演。同大研究科修了。第12回別府アルゲリッチ音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2011にオーケストラメンバーとして出演。2009年、市川市文化振興財団第22回新人演奏会コンクール管楽器部門で優秀賞を受け新人演奏会に出演するなど同財団主催の演奏会に多数出演。コンセール・ヴィヴァン第29回新人オーディション合格し優秀賞を得る。オーボエを藤村理子、宮本文昭、嶋崎耕三、浦丈彦の各氏に、また室内楽を白尾彰、岡本正之の各氏に師事。洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団、洗足学園音楽大学演奏要員を経て、現在はensemble le creuset、市川文化振興財団フレッシュアーティストバンクに所属、柏市音楽家協会会員。

(Ob)山本悦子(やまもと えつこ)

川崎市出身。中学でオーボエを始め、専修大学フィルハーモニー管弦楽団を経て、2001~2013年までエルムの鐘交響楽団にて活動。2008年からハルモニア合奏団で管楽アンサンブルを始め、2014年から「管楽合奏は楽しい会？」に参加。オーケストラは合奏団ZEROに所属している。勤務先の病院では広報・図書室・院内コンサートなどの担当をしている。自他ともに認める無類のパンダ好きで、シャンシャンの名付け親の一人である。近頃は上野と和歌山に通い、予パンダの成長を楽しみに見守っている。

(Cl)景山賢嗣(かげやま けんじ)

東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団、ダングダーク管弦楽団に所属。これまでにクラリネットを平林邦男、兼氏規雄の両氏に師事。平日は大手情報通信企業にてシステムエンジニアとして勤務している。某コンビニATMの取引中継オンラインシステムを担当

(Cl)兼氏規雄(かねうじ のりお)

東京藝術大学附属高校を経て同大学卒業。ミュンヘン国立音楽大学留学。NHK洋楽オーディション合格。NHK「午後のリサイタル」等に出演。水戸芸術館「公募企画シリーズ」の第1回出演者に選出されリサイタルを開催。08年、東京オペラシティでのリサイタルについて、「音楽の友」誌上で絶賛される。水戸芸術館主催の「茨城の名手・名歌手たち」オーディション審査員、「茨城の演奏家による演奏企画」選考委員、茨城県の新人演奏会出演オーディション審査員、新人賞選考委員。また、日本クラシック音楽コンクールの全国大会木管楽器部門審査員も務める。現在、上野学園大学音楽学部、茨城大学教育学部、大東文化大学文学部講師、水戸ゾリステン代表。フルスヴァルト合奏団同人

(Cl)庄子穂奈美(しょうじ ほなみ)

1990年生まれ、宮城県出身。中学時代の吹奏楽部にてクラリネットを始め、高校からレッスンに通い始める。クラリネットを千石進、堀川豊彦の両氏に、室内楽を太田茂氏に師事。昭和音楽大学短期大学部卒業。

(Cl)向山尚志(むこうやま たかし)

12歳よりクラリネットを始め。東京大学入学と同時に音楽部管弦楽団に所属、この間にクラリネットを故・浜中浩一氏ほかに師事。1974～2003年まで東京アマデウス管弦楽団に所属。その後仕事で東京を離れた為、当会には2003年の松戸演奏会が最後だったが、2017年の演奏会から復帰する。

(Fg)阿部憲一(あべ けんいち)

京都大学交響楽団で活躍する。ファゴットを日名弘見氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、アンサンブル・メゾンで演奏活動。令夫人はプロのヴァイオリン奏者、二人の令息はヴァイオリンとチェロを弾き、令嬢は藝大卒の声楽家と言う音楽一家の大黒柱。欧米、アジア各地へ海外出張の多い国際派ビジネスマンでもある。2010年5月の楽しい会?出演後アメリカに赴任するが、2012年春に帰国後当会に復帰し、オケ活動も再開する。最近新しい中古(?)の素敵なおしゃべり器を手に入れ、更に演奏を楽しんでいる。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人

(Fg)大石龍巳(おおいし たつみ) 本日の使用ファゴット~Püchner

京都大学交響楽団で活躍する。阿部氏の後輩である。現在はアンサンブル・メゾン、管楽合奏は楽しい会?で演奏活動中。本業は地方公務員。横浜で街づくりの仕事に携わっている。日く、天気の良い日のランドマークタワーの眺望は最高。演奏会にお出での皆さん、横浜に行きましょう!

(Fg)尾作拓郎(おさく たくろう)

神奈川県出身。法政二高吹奏楽部にてファゴットを始め、法政大学交響楽団を経て、同大学卒業後はシステムエンジニアとして大規模金融システムの開発をする傍ら週末に積極的に演奏活動を行っている。現在、狛江フィルハーモニー管弦楽団に所属。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人

(Fg)山田祐理(やまだ ゆうり)

10歳くらいまでヴァイオリン、中学でユーフォニアム。法政二高吹奏楽部でファゴットを始め、その後法政大学交響楽団、ジュネス等で演奏。ファゴットを森川一氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、ナズドラヴィ・フィルハーモニーで演奏するほか、エキストラとして数多くのオケに出演。背にはコントラ、手にはファゴットを持ち東奔西走している。普段は大学教員(物理化学)として働いている。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人

(Hn)市原秀紀(いちばら ひでき)

東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その間故・伊藤泰世氏に師事。博士課程修了後紆余曲折を経て現在は高分子の研究開発で忙殺されつつ、日曜音楽家としてホルンを嗜む。現在は脇屋俊介、井上華の両氏に師事しながら東京アマデウス管弦楽団を中心に大編成のオーケストラで活動。それ以外にもアマデウスのメンバーと定期的に木管五重奏の演奏会を開いたり、ホルンアンサンブル”Strudel Hornisten”を主宰している。

(Hn)鈴木 彩(すずき あや)

埼玉県出身。12歳よりホルンを始める。桐朋学園大学、同大学研究科を修了し、現在は桐朋学園大嘱託演奏員を経て、洗足学園大学演奏要員を勤めている。在学中に京都国際音楽学生フェスティバル、ラ・フォル・ジュルネ 2014、音楽大学合同フェスティバル2015などに選抜され、2016年小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXVI喜歌劇「こうもり」に参加する。これまでにホルンを根岸伊智郎、猶井正幸、田場英子の各氏に、室内楽を佛坂咲千生、猶井正幸、岡本正之、亀井良信、鈴木良昭、嶺崎耕三の各氏に師事。

(Hr)永田義人(ながた よしと)

京都大学音楽部交響楽団に在籍ののち、金管楽器工房での職人修行から特許事務所勤務を経て、現在は大手IT企業で業務管理に従事。アマチュア奏者として新宿区民オペラ管弦楽団やアンサンブル・メゾンを軸にホルンを演奏する傍ら、近年は合唱団にも所属し、器楽と声楽の二刀流で音楽活動を展開している。ホルンを小山亮氏、山本真氏、山岸博氏に師事、声楽を奥村泰憲氏、松原陸氏に師事。

(Hn)皆川理恵(みながわ りえ)

9歳よりホルンを始める。東京音楽大学音楽学部ホルン科卒業。守山光三氏、冨成裕一氏、湯川研一氏に師事。木管五重奏団アンサンブル・アクアのメンバー。ヤマノミュージックサロン吉祥寺、柏講師。またフリー奏者としても活動中

本日のテーマ「管楽合奏ベルト」は、少々奇矯な感じがするでしょうか。チェコは昔から優秀な管楽器奏者と管楽の作曲家を輩出しています。オーボエ奏者でウィーンではモーツァルトの魔笛の初演に演奏し、彼のオペラを管楽合奏にしたトリエンゼーと岳父のペント。名を変えドイツの作曲家として知られた、クロンマー、シュターミッツ親子、ヴァンハルそれにロゼッティ、更にはパリで管楽五重奏を確立したA.ライヒャなど。ミスリヴィチェクのようにイタリアに向かった人もいますが、ウィーンやミュンヘンでも活躍しました。残念ながらドヴォルザークは管楽合奏を書いていませんが、管弦楽からの面白い編曲がありましたので、取り上げます。編曲でもオリジナル曲でも、その面白さを引き出し、最後までお楽しみ戴ける様に心を込めて演奏したいと存じます。

第54回演奏会は下記の会場と日時です。是非次回もお運び下さい  
2020年5月17日(日)14時開演 北とぴあ・ドームホール